

最終評価シート

中間評価（表紙）

竹田市歴史的風致維持向上計画（平成26年6月23日認定） 中間評価（平成26年度～30年度）

■ 統括シート（様式1）	3
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針	5
II 文化財の保存に関する方針	6
III 歴史的遺産の周辺環境に関する方針	7
IV 観光・情報発信・啓発に関する方針	8
V 伝統行事・伝統芸能に関する方針	9
VI 市民活動に関する方針	10
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 城下町の回遊性の向上	11
ii 町並み景観の保全	12
iii 文化財の保存、公開活用の充実	13
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 建物修景整備事業	14
B 史跡岡城跡保存整備事業	15
C 電線類無電柱化事業	16
D 歴史資料館等公開活用事業	17
E 城下町空き家・空き店舗再生促進事業	18
F 城下町・岡城跡歴史学習事業	19
G 城下町・岡城跡回遊促進事業	20

最終評価シート

中間評価（表紙）

■ 歴史的風致別シート(様式5)

1 城下町の夏越祭にみる歴史的風致	21
2 西宮神社の八朔祭にみる歴史的風致	22
3 岡神社の善神王様祭にみる歴史的風致	23
4 神明社の大祭にみる歴史的風致	24
5 城下町の恵比寿講にみる歴史的風致	25
6 旧竹田荘と豊後南画の祖田能村竹田顕彰活動にみる歴史的風致	26
7 久住高原の野焼きにみる歴史的風致	27
8 久住神社の久住夏越祭にみる歴史的風致	28
9 宮処野神社の神保会行事にみる歴史的風致	29
10 長湯温泉の温泉供養にみる歴史的風致	30
11 農業水利施設の維持にみる歴史的風致	31
■ 庁内体制シート(様式6)	32
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	33
■ 全体の課題・対応シート(様式8)	34

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町の夏越祭にみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
2	西宮神社の八朔祭にみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
3	岡神社の善神王様祭にみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
4	神明社の大祭にみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
5	城下町の恵比寿講にみる歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
6	旧竹田荘と豊後南画の祖田能村竹田顕彰活動にみる歴史的風致	Ⅱ，Ⅳ，Ⅵ	
7	久住高原の野焼きにみる歴史的風致	Ⅳ，Ⅵ	
8	久住神社の久住夏越祭にみる歴史的風致	Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
9	宮処野神社の神保会行事にみる歴史的風致	Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
10	長湯温泉の温泉供養にみる歴史的風致	Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ	
11	農業水利施設の維持にみる歴史的風致	Ⅱ，Ⅳ，Ⅵ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針		
Ⅱ	文化財の保存に関する方針		
Ⅲ	歴史的遺産の周辺環境に関する方針		
Ⅳ	観光・情報発信・啓発に関する方針		
Ⅴ	伝統行事・伝統芸能に関する方針		
Ⅵ	市民活動に関する方針		

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	城下町の回遊性の向上		
ii	町並み景観の保全		
iii	文化財の保存・公開活用の充実		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	建物修景整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	史跡岡城跡保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	電線類無電柱化事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
D	歴史資料館等公開活用事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
E	城下町空き家・空き店舗再生促進事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
F	城下町・岡城跡歴史学習事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
G	城下町・岡城跡回遊促進事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
方針	I 歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

生活の利便性などから歴史的な趣を損ねる改築が散見されるほか、住民の高齢化や大型商業施設等の郊外出店により、閉店する店舗が見られるなど、城下町の空洞化が進んでおり、町並みの景観を阻害する要因となっている。また、歴史的建造物の適正な維持管理が行われず、活用もされないまま老朽化が生じている。

歴史的建造物や江戸時代からの町割りが残る城下町の景観について、自然環境や歴史文化遺産の保存に努め、官民共同で城下町に残された歴史遺産と調和のとれた住環境整備を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	建物修景補助事業	建物修景 43件（H26～H30）	あり	H13～30
2	道路美装化事業	舗装整備 L=980m（H26～H30）	あり	H13～R1

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

建物修景補助事業

城下町における建物修景を「竹田地区街並み形成景観・修景ガイドライン」に沿って実施した。事業実施にあたり、住民代表や有識者等による「歴史的街並み形成審査会」を開催し、修景予定建物の設計内容についてガイドラインに沿って審査し、周辺環境と調和のとれた建物修景を実施した。



建物修景の状況(左:実施前 右:実施後)

道路美装化事業

城下町に点在する歴史的遺産を結ぶルートを「歴史の道」として、周辺環境と調和のとれた道路整備(カラー舗装)を実施したことにより、街並みの景観向上が図られた。



道路美装化状況

④ 自己評価

城下町の歴史遺産と調和のとれた町並みの形成を行い、来訪者が周遊する仕掛けづくりを行った。特に建物修景については、「歴史的街並み形成審査会」を開催し住民や有識者の意見を聴取、官民共同による景観形成を実施することが出来た。

⑤ 今後の対応

今後も、「竹田地区街並み形成景観・修景ガイドライン」に沿った修景事業を、住民や有識者の意見を聴取し実施していく。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
方針	Ⅱ 文化財の保存に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

城下町に存在する指定文化財について未修理の物件が数多く存在し、未指定の文化財についても、詳細な調査が行われず、価値付がされていないものがある。また、貴重な文献資料や美術品等の保管についても、図書館・歴史資料館の老朽化により適切な管理が難しい状況となっている。

指定文化財については、所有者と共同し適切な管理及び保存修理を図り公開活用を行う。また、文献資料及び美術品等については適切に保存するスペースを確保し公開が行われる施設整備を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	旧竹屋書店保存修理事業	修復に関する所有者との協議を実施	あり	H26～R1
2	吉川家住宅保存修理事業	修復後の活用方針を検討	あり	H21～R1
3	史跡岡城跡保存整備事業	便益施設・説明板・案内標識の設置	あり	S63～R5
4	西光寺境内保存修理事業	本堂の保存修理を実施	あり	H26～30
5	歴史資料館等公開活用整備事業	図書館・歴史資料館の再整備	あり	H26～30

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

旧竹屋書店保存修理事業

登録有形文化財である旧竹屋書店については、修復に向けた協議を所有者と行った。また吉川家住宅の修復後の活用方針について検討を行ったが、具体的なスケジュールの調整には至っていない。

史跡岡城跡保存整備事業

岡城跡は来訪者の利便性向上のために、便益施設（トイレ・休憩所）の建設、説明板等の整備を実施した。また、熊本地震により被災した石垣の復旧工事も実施し、被災前の状況に復することができた。

歴史資料館等公開活用整備事業

貴重な文献資料や美出品を収蔵する施設である図書館、歴史資料館の再整備（新築）を実施し、貴重な収蔵品を良好な状態で保管できるようになった。

収蔵する資料については、有形文化財及び明治時代以前の文献資料については歴史資料館、明治時代以後の文献資料については図書館において収蔵する。

④ 自己評価

旧竹屋書店・吉川家住宅の修復について、修復後の活用方針が定まっておらず、修復に着手できなかった。岡城跡の災害復旧については、H30年度に完了し、来訪者の安全性確保が図られた。新図書館・歴史文化交流センターの整備推進により、貴重な資料の保存活用が進んでいる。

⑤ 今後の対応

文化財の計画的な保存修理を実施し、公開活用を行う。また、貴重な歴史資料の保管活用施設である 図書館や歴史文化交流センターの連携を確立し、新規収集品の適切な保管を行う。



岡城跡石垣復旧の様子



新市立図書館

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
方針	Ⅲ 歴史的遺産の周辺環境に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

江戸時代から町割りがほぼ変化していないため道幅が狭い上、電柱・電線などの障害物があり来訪者の歩行に支障をきたし景観形成にも影響を与えている。また、老朽化した道路、統一されていない街路灯や店舗の看板等についても町並み景観の周辺調和に多大な影響を与えている。

城下町に点在する歴史的遺産を線で結び、城下町全体を面として歴史・文化のまちづくりを展開していくため、歩行の障害となる電柱や街路灯の移設や景観に合わせた道路整備を行い景観形成を進める。また、地域に居住する住民と行政が協働体制を構築し、歴史と生活が融合したまちづくりを進めるとともに、地域文化の歴史的価値を再認識するような歴史や文化を学習する場づくりを行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	道路美装化事業	道路美装化 L=980m(H26～H30)	あり	H13～R1
2	電線類無電柱化事業	歩行空間の魅力向上 L=400m	あり	H28～R1
3	歴史資料館等公開活用整備事業	図書館・歴史資料館の再整備	あり	H26～R1
4	城下町回遊館整備事業	城下町の拠点施設 実施設計作成	あり	H26～R1
5				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

電線類無電柱化事業については、推進協議会の開催や沿線住民と無電柱化事業完了後の通りの使い方などを意見交換し、景観を活用したまちづくりについての気運づくりを醸成した。無電柱化工事については、共同溝埋設、美装化(本町)が完了した。

電線類無電柱化
 本町通電線共同溝(400m)H29～H30
 駅前電線共同溝(400m)H30～R1

道路美装化については、城下町の景観と調和した舗装整備を実施した。

美装化実施 H26年度 L=54m(新町線)
 H27年度 L=94m(横町線)
 H28年度 L=204m(八幡川線、代官町線、溝川線)
 H29年度 L=162m(向丁線、代官町線)
 H30年度 L=561m(府内町線、向丁線、本町線)

新図書館(H29オープン)、総合文化ホール(H30オープン)の建設により、各種講座(新図書館)や講演会(総合文化ホール)の開催により、歴史や文化を学習する場づくりに繋がった。

電線類無電柱化施工状況

歴史文化交流センター完成予想図

④ 自己評価

無電柱化及び道路美装化の実施により、城下町の調和のとれた景観形成を実践している。特に新図書館周辺の道路美装化の実施により、文化の拠点施設と周辺の景観づくりが図られ、相乗的な効果が発揮されている。

⑤ 今後の対応

引き続き、城下町の景観形成を実践していく。また、電線類無電柱化事業、歴史文化交流センター建設、城下町プラザ建設は、令和元年度に事業が完了することから、各施設の連携した事業展開を行い、城下町内の回遊性向上を図る。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
方針	Ⅳ観光・情報発信・啓発に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

城下町内の案内板の乱立や説明板の統一感がないことに加え老朽化も進み、来訪者に対して城下町回遊ルート案内等が充足されていない。また、城下町と岡城跡との距離が離れているため双方へのスムーズな誘導を促す標識等の設置やスムーズに移動するための対応がされておらず、来訪者に対する観光案内施設や情報発信が不十分である。

城下町の歴史文化を住民や来訪者に周知するための案内板・説明板、拠点施設の整備を行う。また、歴史的町並みや道筋をスムーズに回遊させる導線整備を行い、歴史や文化を活かした観光振興につなげていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	城下町岡城跡回遊促進事業	周遊バスの運行 H30年度利用143名	あり	H26～30
2	城下町案内マップ等制作事業	案内マップ等作成	あり	H26～30
3	城下町回遊館整備事業	城下町の拠点施設 実施設計作成	あり	H26～R1
4	歴史資料館等公開活用事業	図書館・歴史資料館の再整備	あり	H26～R1

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

城下町の回遊性向上のため周遊バス(期間限定)の運行実験を実施した。実験の結果、JR竹田駅、総合文化ホール、岡城において乗降客が多く、周遊バス運行はJR竹田駅から岡城跡や総合文化ホールへの移動手段として有効であると確認された。

また、岡城跡を訪れる来訪者の利便性向上のため岡城登城バスの運行をH27から実施した。

岡城登城バス運行実績

	H27	H28	H29	H30
運行日数(日)	121	49	56	60
利用者数(人)	6,204	3,013	4,295	3,426

※H30は4月～12月まで

新市立図書館・・・平成29年5月21日新市立図書館オープン、オープン前と比べ、利用者数が倍増している。

市立図書館利用実績

年 度	H27	H28	H29	H30
利用人数	38,023	32,011	66,342	72,973
備 考	旧図書館	旧図書館	新図書館開館	

歴史資料館・・・市民ギャラリー、岡城ガイダンス、田能村竹田美術館(隣接する旧竹田荘と一体的な運営)の機能を持つ。(令和元年完成予定)

岡城登城バスの運行

新市立図書館利用状況

④ 自己評価

JR豊後竹田駅から岡城跡までの移動手段として、バス利用の有効性が立証された。また、新市立図書館の開館により情報発信の場が増えた。

⑤ 今後の対応

城下町周辺に建設される歴史・文化施設(新図書館・歴史文化交流センター・城下町プラザ・総合文化ホール)のインフォメーションを有効に活用し、来訪者への情報発信の充実を図る。また、観光客利便性向上のため、各施設への移動ルート整備(通路整備、案内板整備)、移動手段(徒歩・バス等)の確立を行う。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
方針	V 伝統行事・伝統芸能に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

市内で行われている祭礼や伝統芸能は、地域住民により伝承されている。近年、用具等の老朽化や若年層の市外転出や少子化から担い手の確保が難しくなり、祭礼の規模縮小や伝統芸能の継承が危ぶまれている。

地域で継承される祭礼や伝統芸能を確実に後世へ継承していくために、担い手の確保や育成を目的とした支援及び活動に必要な用具の整備等の支援を必要に応じ実施する。また、祭礼や伝統芸能の披露、活動しやすい環境整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	民俗芸能等支援事業	用具の整備支援 5件(H26～H30)	あり	H15～30
2	伝統芸能公開	神楽大会の実施(民間団体による)年1回	なし	H26～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

民俗芸能等支援事業として、用具の整備支援(竹田市コミュニティ助成事業)を実施した。
神楽衣装・獅子頭などH26～H30まで5件実施。

伝統芸能公開
市内の11神楽座が研さんの場として舞を披露する民間団体による「神楽研修舞」が開催され、市内に継承される伝統芸能が、広く市民に公開された。

新調した獅子頭

神楽研修舞の様子

④ 自己評価

祭礼や伝統芸能の用具整備の実施により、練習への積極的な参加等、保存会会員の活動意欲向上が見られた。また、市内で継承されている伝統芸能を、多くの市民及び観光客に公開することができ、地域のまちづくりの活性化に繋がった。

⑤ 今後の対応

地域に残される伝統芸能の確実な伝承のため必要な助成を今後も引き続き実施する。また、多くの人々に伝統芸能を公開する機会を設ける。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
方針	VI市民活動に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的風致を維持向上させ、将来へ継承していくためには地域住民の歴史・文化に対する理解が不可欠であるが、歴史文化を学習する機会が不足しており、その担い手も不足している。また、住民が行う竹田市固有の文化芸術活動を公開する施設の整備が不十分であり、活動に支障をきたしている。

地域の歴史文化を学習する機会を確保するとともに、こうした機会を広く周知、拡大する。また、城下町を案内するボランティアガイドや市民講師の充実を図り、人材育成による歴史まちづくりを進める。こうした市民活動を支援を積極的に行うため、活動を展開できる施設の整備を行い、市民活動の拠点及び歴史文化の学習を深める場として活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	城下町ガイド育成	岡城こどもガイド育成等 14名(H26～H30)	あり	H26～R5
2	城下町岡城跡歴史学習事業	講演会の開催 14回開催(H26～H30)	あり	H26～R5
3	総合文化ホール整備事業	文化芸術施設の整備	あり	H26～30

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

城下町ガイド育成
 岡城跡への来訪者の案内やおもてなしを行う、岡城たのしみ隊（ボランティアガイド）及び岡城武者揃等の団体の活動に支援や研修会を実施した。また、岡城こどもガイド養成（夏休みに講義を行い、秋の観光シーズンにガイドとして案内）取組を行った。
 岡城こどもガイド育成 14名（H26～H30）

城下町岡城跡歴史学習事業
 地域の歴史・文化を学ぶ講演会等を実施した。
 H26～H30開催回数 14回（参加者数約1,750名）

総合文化ホール整備事業
 H24年の九州北部豪雨により被災した竹田文化会館（現竹田市総合文化ホール グランツたけた）の整備を行った。市民の文化・芸術発信の拠点として活用される。

岡城こどもガイドの様子

総合文化ホール「グランツたけた」

④ 自己評価

地域の歴史・文化を学ぶ機会を数多く設けることができた。また、市民の活動拠点となる施設の開館や建設が進み、歴史文化活動の公開活用が広がりを見せている。
 児童数の減少により、岡城こどもガイド希望者の減少が懸念される。

⑤ 今後の対応

総合文化ホールや歴史文化交流センターを活用し、地域の歴史・文化を機会設ける。また、歴史学習やガイド研修などを通して、地域を担う人材育成を行う。また、受講希望者の減少が懸念される岡城こどもガイドの募集方法について、見直しの検討を行う。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
効果	i 城下町の回遊性の向上		

① 効果の概要

「歩けるまち」「歩きたくなるまち」の基盤整備を行い、歴史・文化遺産を活用した観光、商店街振興に結び付ける。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H27～R1
2	都市再生整備計画	あり	H26～30
3	竹田市都市再生まちづくり基本計画	なし	H26～R5

③ 効果発現の経緯と成果

城下町内の歩行者通行量については、認定前の通行量に比べ微増となっている。これは、区域内での無電柱化工事や道路美装化等により歩行制限があるためと考えられる。実際に休日の歩行者数のみを取り上げると、H29の2,337人からH30は3,519人となっており着実に増加の方向にあると考えられる。

現在工事中により通行の支障となっていた竹田市電線類無電柱化整備事業や道路美装化整備事業が完了することにより、更なる歩行者通行量の増加に加え、歴史文化交流センターや城下町プラザの完成により、各施設の利用者が歩行者通行量の増加が見込める。

また、城下町内の各施設を結ぶ道路について、美装化を実施することに加え、城下町区域内をゾーン30（速度規制）を設け、安全で歩きやすいまちを実現した。

休日（土・日）の歩行者数（人）

年 度	H29	H30
歩行者数	2,337	3,519



道路美装化とゾーン30

城下町区域歩行者通行量（単位：人）

年度	歩行者通行量（人）	備考
H25	3,219	従前値
H26	未調査	
H27	2,650	
H28	3,635	実績値
H29	3,527	
H30	3,238	

④ 自己評価

中心市街地活性化基本計画、都市再生整備計画に記載の各事業とリンクした、電線類無電柱化事業や道路美装化等の事業を実施している。

城下町の歩行者数については、顕著な増は見られないが、現在無電柱化や美装化の工事が実施されており、工事完了後には、歩行者数の増加が十分に見込まれる。

⑤ 今後の対応

今後も、城下町の回遊性の向上を実現していくため、各種事業の着実な推進により歩行者の歩行環境を向上させることで、歩行者通行量の増加に繋げて行く。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
効果	ii 町並み景観の保全		

① 効果の概要

歴史的な建造物が建ち並び、江戸時代からの町割りが残る城下町の景観の保全により、歴史遺産と調和のとれた住環境整備を進める。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H27～R1
2	都市再生整備計画	あり	H26～30
3	竹田市景観計画	あり	H27～

③ 効果発現の経緯と成果

400年の歴史を持つ城下町の町並みを形成する、歴史的建造物等の特性を活かした修景事業を43件実施した。あわせて、城下町の景観を阻害する老朽危険家屋の除去についても実施した。

また、高齢化等により城下町内の空き家・空き店舗が増え、町並み景観を阻害する要因となっていることから、新たに起業を行うものに対し、補助金や助成制度を設け、移住者等により空き家・空き店舗の活用して、飲食店やギャラリー等が新たに開業した。H26年以降、下記店舗数は45～42件と横這いであるが、高齢等により廃業する店舗と新規開店店舗数がほぼ同数で移行していると言える。

(件) 空き店舗数（単位：件）

年度	計画策定時	実績値
H26	45	
H27		42
H28		42
H29		42
H30		43

修景前

↓

修景後

建物修景事業

④ 自己評価

城下町内の建物修景事業や老朽危険家屋の除去を実施し、町並みの歴史的景観を向上することができた。また、空き家や空き店舗を利用し新たに起業することにより、城下町の賑わい創出を図ることができた。

⑤ 今後の対応

今後も引き続き、城下町にふさわしい歴史的な景観を形成しようとする建造物・工作物の新築・修復等に要する経費の一部を助成し、魅力あるまちなみ整備と中心市街地の活性化を図る。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年																																																																						
効果	iii 文化財の保存、公開活用の充実																																																																								
① 効果の概要 市内に残される貴重な文化遺産の後世への確実な継承を図るとともに、広く市民や来訪者に公開し活用を図る。																																																																									
② 関連する取り組み・計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>他の計画・制度</th><th>連携の位置づけ</th><th>年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>都市再生整備計画</td><td>あり</td><td>H26～30</td></tr> <tr> <td>2</td><td>史跡岡城跡保存管理計画</td><td>あり</td><td>S60～</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	都市再生整備計画	あり	H26～30	2	史跡岡城跡保存管理計画	あり	S60～																																																										
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																																																																						
1	都市再生整備計画	あり	H26～30																																																																						
2	史跡岡城跡保存管理計画	あり	S60～																																																																						
③ 効果発現の経緯と成果 史跡岡城跡は、本市の観光の中心となる文化財であることから、熊本地震により被災した石垣復旧工事など、適切な保存整備、利用者の利便性向上のため便益施設（休憩所・トイレ）の建設や説明板・案内板の設置、景観阻害樹木の伐採等を実施し、公開活用を図った。また、城下町内に市立図書館、歴史文化交流センターの建設を行い、貴重な歴史文化遺産の保管・公開施設として整備を実施により、H28の熊本地震により減少した城下町への観光客数もH29以降増加傾向にある。 史跡岡城跡年間入城者数 <table border="1"> <caption>史跡岡城跡年間入城者数 (推定値)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>入城者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>21年度</td><td>85,000</td></tr> <tr><td>22年度</td><td>75,000</td></tr> <tr><td>23年度</td><td>70,000</td></tr> <tr><td>24年度</td><td>78,000</td></tr> <tr><td>25年度</td><td>70,000</td></tr> <tr><td>26年度</td><td>78,000</td></tr> <tr><td>27年度</td><td>75,000</td></tr> <tr><td>28年度</td><td>55,000</td></tr> <tr><td>29年度</td><td>60,000</td></tr> <tr><td>30年度</td><td>60,000</td></tr> </tbody> </table> 重点区域内6観光施設の年間入場者数推移 <table border="1"> <caption>重点区域内6観光施設の年間入場者数推移 (千人)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>従前値</th><th>実績値</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17</td><td>250.1</td><td></td></tr> <tr><td>H18</td><td>206.8</td><td></td></tr> <tr><td>H19</td><td>202.9</td><td></td></tr> <tr><td>H20</td><td>194.4</td><td></td></tr> <tr><td>H21</td><td>169.2</td><td></td></tr> <tr><td>H22</td><td>186.4</td><td></td></tr> <tr><td>H23</td><td>194.8</td><td></td></tr> <tr><td>H24</td><td>204.2</td><td></td></tr> <tr><td>H25</td><td>188.1</td><td></td></tr> <tr><td>H26</td><td></td><td>231.4</td></tr> <tr><td>H27</td><td></td><td>212.6</td></tr> <tr><td>H28</td><td></td><td>156.1</td></tr> <tr><td>H29</td><td></td><td>170.8</td></tr> <tr><td>H30</td><td></td><td>171.4</td></tr> <tr><td>H31</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 重点区域内6観光施設 ・花水月 ・瀧廉太郎記念館 ・旧竹田荘 ・岡城跡 ・佐藤義美記念館 ・歴史資料館				年度	入城者数	21年度	85,000	22年度	75,000	23年度	70,000	24年度	78,000	25年度	70,000	26年度	78,000	27年度	75,000	28年度	55,000	29年度	60,000	30年度	60,000	年度	従前値	実績値	H17	250.1		H18	206.8		H19	202.9		H20	194.4		H21	169.2		H22	186.4		H23	194.8		H24	204.2		H25	188.1		H26		231.4	H27		212.6	H28		156.1	H29		170.8	H30		171.4	H31		
年度	入城者数																																																																								
21年度	85,000																																																																								
22年度	75,000																																																																								
23年度	70,000																																																																								
24年度	78,000																																																																								
25年度	70,000																																																																								
26年度	78,000																																																																								
27年度	75,000																																																																								
28年度	55,000																																																																								
29年度	60,000																																																																								
30年度	60,000																																																																								
年度	従前値	実績値																																																																							
H17	250.1																																																																								
H18	206.8																																																																								
H19	202.9																																																																								
H20	194.4																																																																								
H21	169.2																																																																								
H22	186.4																																																																								
H23	194.8																																																																								
H24	204.2																																																																								
H25	188.1																																																																								
H26		231.4																																																																							
H27		212.6																																																																							
H28		156.1																																																																							
H29		170.8																																																																							
H30		171.4																																																																							
H31																																																																									
④ 自己評価 岡城跡等の指定文化財の保存整備を計画的に実施し、貴重な歴史遺産の後世への継承に継続的に取り組んでいる。また、貴重な文化財の保管や公開活用の方として、平成29年度には新市立図書館を整備、開館し、現在は歴史文化交流センターの建設に着手している。																																																																									
⑤ 今後の対応 令和元年度に策定する岡城跡保存活用計画に基づき、岡城跡の保存活用を推進する。また、新図書館、歴史文化交流センターの効果的な活用を図る。																																																																									

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	A 建物修景整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

400年の歴史を持つ城下町竹田は、現在でも江戸時代からの町割と古い町並みが残されている。城下町の歴史的な町並み景観を維持し、竹田らしい魅力あるまちづくりを進め、これらを観光資源として活用することによって、城下町として発展してきた中心市街地の再生に取り組んでいる。

このため、城下町にふさわしい歴史的な景観を形成しようとする建造物・工作物の新築・修復等に要する経費の一部を助成し、魅力あるまちなみ整備と市街地の活性化が図られる。

【建物修景の取組】

- ・平成26年度 10件
- ・平成27年度 4件
- ・平成28年度 8件
- ・平成29年度 8件
- ・平成30年度 13件

建物の修景



塀の修景後

② 自己評価

城下町竹田らしい魅力ある町並み整備として、「街並み形成景観・修景ガイドライン」にそって、建物建築及び修景を行う物件を対象に助成を実施した。対象物件は有識者で構成する審査会を開催し、ガイドラインに沿った設計となっていないものについては指導等を行い、竹田らしい落ち着いた町並み形成を図ることができた。

外部有識者名	九州大学大学院 教授 藤原恵洋
外部評価実施日	平成31年2月11日

③ 有識者コメント

阿蘇溶結凝灰岩の崖地に囲まれるように発達した竹田市の中心市街地は400年来に及ぶ近世期以来の城下町である。江戸期以来の水路と町割により構成された市街地に歴史的な景観を醸成し、木造および蔵造りの家屋が軒を連ね、高密度の町並みを形成する。岡城城下町にふさわしい歴史的な町並み景観を保全するため「街並み形成景観・修復ガイドライン」を作成し、平成26年（2014）度より景観形成に貢献しうる建造物・工作物の新築・修復等に要する経費の一部を助成。26～30年度の5年間を通して延43件に及ぶ取り組みを生み出してきた。対象物件の選定はガイドラインに従いながら有識者による審査会が担当してきた。しかし近年は建築技術者・大工・左官の技の質の維持や技能の保持が課題となっており、ガイドラインに沿わない瑕疵のある事例も若干見られる。そのため普段からの技術・技能に関する研修や交流、技能保持者・後継者の育成事業等が急ぎ求められる。

④ 今後の対応

今後も、町並みの景観保全を推進するため、助成を継続して実施していく。また、歴史的建造物の修復を担う技術者の育成を行い「街並み形成景観・修景ガイドライン」に沿った景観保全を行う。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	B史跡岡城跡保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

史跡岡城跡は竹田市における重要な歴史的遺産であり重要な観光拠点でもある。また、地域住民にも親しまれており、生涯学習や観光の拠点として保存修理を進め、公開活用の促進を行うため、史跡岡城跡保存活用計画の策定に着手した。

【岡城跡整備の取組】

- ・平成26年度…案内板、説明板の設置
- ・平成27年度…便益施設（休憩所・トイレ）設計業務
- ・平成28年度…便益施設（休憩所・トイレ）建設、説明板設置
災害復旧工事（台風被害・熊本地震）
- ・平成29年度…災害復旧工事（台風被害・熊本地震）、支障木の伐採
- ・平成30年度…災害復旧工事（熊本地震）、支障木の伐採、史跡岡城跡保存活用計画策定



便益施設の整備



石垣保存修理



支障木の伐採状況

② 自己評価

広大な城跡を効率よく見学するために、城内案内板、説明板の設置、来訪者の利便性向上に資する、便益施設（トイレ・休憩所）の建設を実施し公開活用の促進が図られた。また、平成27年の台風及び平成28年の熊本・大分地震で被災した石垣等の災害復旧を実施し、来訪者の安全性の確保を行うことができた。

外部有識者名	九州大学大学院 教授 藤原恵洋
外部評価実施日	平成31年1月31日

③ 有識者コメント

国史跡である岡城跡は戦前期昭和11年（1936）に指定されて以来、わが国を代表する中世以来の広大な山城の威容を誇り、滝廉太郎作曲「荒城の月」のイメージを彷彿とする場所として来訪者の人気を博している。明治維新以降の廃城令により城内施設は灰燼と帰ってしまった。そのため石垣のみを残すが、平成18年（2006）には日本100名城にも選定され、全国から訪れる山城ファンや観光を主眼とした来訪客は多い。が、高齢化や足腰の不自由も伴うため、広大な城内を歴史理解と空間体験をしながら周遊するには適切なルート設定と移動しやすい歩行空間の整備が欠かせない。併せて案内・説明・解説板類も城内景観の保全や向上に寄与する必要がある。さらに来訪者トイレや無料休憩の便益サービス設備も必要であり、史跡の効果的活用が積極的に行われている。

一方、平成27年（2015）の台風惨禍や平成28年（2016）の熊本地震被災等による損傷石垣等を災害復旧し、来訪者の移動・周遊の安全を図っている。

今後の課題としては、類似した洋式城址を有する欧州地中海地方や東アジアからのインバウンド（外国人来訪者）向けに案内解説の多言語化やガイドの有償通訳化等の対応が急務であろう。

④ 今後の対応

岡城跡保存活用計画を策定し、史跡の適切な保存・整備・活用の方向性を確立する。また、近年増加傾向にある、外国人観光客への対応として、パンフレットや案内板の多言語化を検討する。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	C 電線類無電柱化事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

歩行や城下町の景観に支障を来している電柱や電線を地下埋設し、歩行空間の確保と景観形成を行い、歩いて楽しい道路整備を実施しており、令和元年度完了予定となっている。

事業推進にあたっては、生活の一部としての「通り」をもっと身近に、もっと夢のある「通り」として盛り上げるため、無電柱化路線を車輛通行止めにし、歩行者に解放した「通りあそびフェスタ」を開催した。

【電線類無電柱化事業】
 本町通電線共同溝(400m)H29～H30
 駅前電線共同溝(400m)H30～R1



共同電線溝の埋設状況



通りあそびフェスタの様子

② 自己評価

電線類無電柱化事業推進にあたり、地元推進協議会の新設や市民説明会を開催し、住民意見を反映させながら事業推進に取り組んでいる。また、生活の一部としての「通り」をもっと身近に、夢のある「通り」として盛り上げるため、「通りあそびフェスタ」を開催し、平成31年度の無電柱化完了後の「通り」の活用を考える機会が設けられた。

外部有識者名	九州大学大学院 教授 藤原恵洋
外部評価実施日	平成31年1月31日

③ 有識者コメント

竹田市の中心市街地は400年来に及ぶ近世期以来の城下町として、江戸期以来の水路と町割により構成された市街地の中に、木造および蔵造りの家屋が連なり、歴史的な町並み景観を醸成している。岡城城下町にふさわしい歴史的な町並み景観を保全するため「街並み形成景観・修復ガイドライン」が作成され、26～30年度の5年間を通して延43件に対して景観形成に資する建造物・工作物の新築・修復等に要する経費の一部を助成してきた。ここから誘発される竹田の優れた町並みをさらに育むため、電柱や電線を地下埋設し歩行空間の確保と景観形成を行なう電線類無電柱化事業を平成29年（2017）度から開始し平成30年（2018）度へかけ本町通電線共同溝（400m）、さらに平成30年（2018）度から翌31年（2019）度にかけて駅前電線共同溝（400m）を実施中である。

電線類無電柱化による景観イメージを確保してもらうためにも、事業開始以前より推進協議会や市民説明会を開催し、住民意見を吸い上げながら事業推進が進められている。同時に「通り」の魅力増大化を図るため、無電柱化路線を通行止め・歩行者天国として市民に開放しながら「通りあそびフェスタ」を開催、ここから事業終了の31年（2019）度以降の「通り」活用を検討する機会が生み出され、歴史的な町並み景観を保全する上で市民参加が重要であることを把握できている。

④ 今後の対応

まちなかの回遊性向上を実現するため、事業完了後も通りの方環境向上に向けた、検証等を実施する。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	D 歴史資料館等公開活用事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

歴史的文化的遺産を保管、公開する施設である歴史資料館、図書館の再整備を進めている。再整備により文化・情報・生涯学習の拠点及び城下町の中核施設として位置づけ、岡城跡や城下町に関する総合的なガイダンス機能を備えた文化観光拠点施設としての役割を担うものである。また、文化行政の拠点となる総合文化ホールの建設も実施し、これらの施設の連携を図ることにより、文化芸術並びに中心市街地の再生に連動させることを目的とする。

市立図書館利用実績

年 度	H27	H28	H29	H30
利用人数	38,023	32,011	66,342	72,973
備 考	旧図書館	旧図書館	新図書館開館	

【歴史文化拠点施設整備】

- ・新市立図書館…平成29年5月開館
- ・総合文化ホール…平成30年10月開館
- ・歴史資料館（歴史文化交流センター（仮称））…平成31年度完成予定



新市立図書館



建設中の歴史文化交流センター(仮称)



総合文化ホール

② 自己評価

各施設の建設にあたっては、アンケート調査や市民フォーラム等を開催し、市民の意見・要望を加え、官民の意見を集約した設計を行うことができた。また、各施設の役割について明確にするとともに、密接に係る各施設の連携した運営が図られるよう取り組みを進めている。開館した、新図書館については、これまでの入館者数が13万人を数え、入館者数は旧図書館の2倍となっている。また、市外からの入館者数も大きく増加している。

外部有識者名	九州大学大学院 教授 藤原恵洋
外部評価実施日	平成31年1月31日

③ 有識者コメント

本事業により計画・創出された歴史文化拠点施設整備は、(1) 竹田市立図書館：平成29年（2017）5月開館、(2) 竹田市歴史文化交流センター（仮称）：平成31年（2019）度完成予定、(3) 竹田市総合文化ホール「グランツたけた」：平成30年（2018）10月グランドオープン、の3件である。

本事業がめざす個別の事業目的と相互のレゾネイト（共鳴）効果は、芸術文化・情報発信・生涯学習・市民活動等の拠点整備として推進、さらに連携した事業企画や運営手法の共同化、等が図られる点である。また竹田城下町の中核施設として来訪者や観光客のビジターセンター的なガイダンス機能を備え、文化観光に及ぶ立ち寄り拠点としてもおおいに活用しうる。

各施設の建設にあたってはアンケート調査や市民フォーラムを通し市民の意見・ニーズを吸い上げていったというが、さらに施設的には歴史的な材質感や色合いへの配慮を外観意匠に見せる中、竹田市のアイデンティティ構築に寄与することが期待される。同時に各々の機能が活かされることで豊かな市民生活の醸成や文化行政を育む役割もおおいに期待されよう。

④ 今後の対応

歴史文化活動の拠点施設である、新図書館、歴史文化交流センター、総合文化ホールのそれぞれの特性を活かした活用を推進し、3施設の連動した運営に努める。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	E 城下町空き家・空き店舗再生促進事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

城下町である中心市街地の商店街では、近年著しく衰退が進行しており、空き家、空き店舗が目立ち始めている。空き家、空き店舗の再生に必要な改修等に対し支援を実施し、城下町を形成している建造物を再生しながら空き家や空き店舗の活用を行い、良好な景観形成の推進及び中心市街地の活性化が図られた。




空き店舗を改修し起業した飲食店舗

空き店舗の活用（竹田キリシタン研究所・資料館）

② 自己評価

城下町の空き家や空き店舗を利用して、若い世代による新たな店舗や観光施設の開業が行われた。創業に際し、補助金等の助成を行い、城下町本来の商業機能の振興と賑わいづくりを図ることができた。

外部有識者名	九州大学大学院 教授 藤原恵洋
外部評価実施日	平成31年1月31日

③ 有識者コメント

竹田市の中心市街地は400年来に及ぶ近世期以来の城下町として、江戸期以来の水路と町割により構成された市街地の中に、木造および蔵造りの家屋が連なり、歴史的な町並み景観を醸成している。しかしこの中心市街地も、かつて繁栄を誇った商業経済活動が著しく衰退し、少子高齢化・人口現象の中で商店街に空き家・空き店舗が目立つようになってきている。そこで空き家・空き店舗の再生を目指した改修等に対して経費的な助成を実施、そこから空き家・空き店舗の活用を通して優れた景観形成の促進と中心市街地の活性化へ向けた取り組みが、平成26年（2014）度～30年（2018）度を通して斬増している。

とりわけ次世代リーダーの起業による料飲店（カフェ・レストラン）は先導的な成功事例を見せる。修景された民家を活用し、同志的な仲間が参加しあう店舗改修事業を実施、ユニークな手作りインテリアを生んだ。そこは毎晩、地元後継世代ならびに地域おこし協力隊員といった内外を繋ぐ居場所として交流・邂逅・情報交換・情報発信の場を形成し、近年は人気のなかった中心市街地の界限に、昼食時や夕食時～深夜にかけ集う若者が賑わいをもたしたことを高く評価すべきであろう。

一方、郷土文化再発見および展示施設、ならびに観光拠点のいっかんとして生まれた竹田キリシタン研究所・資料館も空き店舗を活用、町並みに変化と賑わいをもたらしている。

今後も同様の空き家・空き店舗や未利用地の利活用は中心市街地の活性化を牽引する事業として重要な意味を持つ。その際、空き家・空き店舗の所有者と利活用希望者とのマッチングを図るため市役所職員やコーディネーターの役割も肝要であると同時に中心市街地における住民参加型取り組みとして育成することがたいせつである。そうした基盤をもとに城下町が本来有した商業・経済活動の浮揚を目指す、そのため今後は「竹灯籠・竹楽」イベントのような来訪者創出ソフト事業との連携が重要である。週末の土曜夜市や朝市のような生産者露天市、中心市街地を用いた巡行型祭礼やユニークな空間活用型イベント等も期待できる。

④ 今後の対応

空き家、空き店舗の活用を推進するため、引き続き支援を実施し、賑わい創出に努める。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	F 城下町・岡城跡歴史学習事業	種別	歴史的風致維持 向上施設
① 取り組み概要 市内に残される歴史文化遺産について、広く市民や観光客に対し関心をもってもらうことが重要であることから、各種講座・講演会（由学館セミナー）や小中学校への文化財学習、伝統芸能の公開、文化財修理現場公開などを実施し啓発活動を行った。 講演会や講座では、主として城下町の歴史的風致に関連する題材（岡城・岡藩・歴史的遺産を活かしたまちづくり等）をテーマに開催し、終了後にアンケートや質疑等による住民意見の聴取を行った。 【学習会等開催実績】 平成26年度…講演会1回、各種講座65回 平成27年度…講演会4回、各種講座64回 平成28年度…講演会4回、各種講座12回 平成29年度…講演会2回、現場説明会1回 平成30年度…講演会2回、各種講座8回 現場説明会2回			
		 由学館セミナーの様子  文化財修理現場公開(岡城跡)	
② 自己評価 由学館セミナーの定期的な開催により、歴史・文化に関する学習を行う機会を設けることができた。また、来場者のアンケート調査を行い、市民の興味のある講演内容の把握に努めた。文化財等の内容について深く掘り下げた学習機会として文化財市民講座、発掘調査及び保存修理現場の公開を行い文化財愛護の啓発が図られた。また、熊本地震によりH28年度以降歴史資料館が休館し、講座の受講回数が減少している。			
外部有識者名	九州大学大学院 教授 藤原恵洋		
外部評価実施日	令和元年5月24日		
③ 有識者コメント 当該の歴史学習事業は、竹田市内に遺された歴史文化遺産を包括的に捉え、市民のみならず来訪客・観光客に向けてより高次の関心や興味を誘発するために構想されたものであり、平成26年度に開始されて以降、学識者による「由学館セミナー」と銘打たれた講演会ならびに各種講座や岡城における文化財修理工事現場での説明会を通して、積極的な開催実績を誇ってきた。平成26年度：講演会1回、各種講座65回。平成27年度：講演会4回、各種講座64回。平成28年度：講演会4回、各種講座12回。平成29年度：講演会回、各種講座回、現場説明会1回。平成30年度：講演会2回、各種講座8回、現場説明会2回。さらに、これらの多数に及ぶ学習プログラムに集われた延べ人数も重要である。事業の企画・実施に当たっては担当部署スタッフによるテーマ構想（企画）・企画準備（仕込み）・告知（宣伝）・開催実施・参加者の満足度の確認（アンケート、フィードバック）・事業課題の抽出・次年度企画への申し送り、等を通じた当該事業の認知度・内容の理解度・地域文化財文化資源の愛護精神の涵養・次世代への啓発啓蒙・興味を有する市民サポーターやボランティアの発掘・育成等の効果が期待される。そのためにもこれまで培われたアンケート集積の内容分析や評価に立脚したうえで市民提案による新規事業構想などを積極的に推進すべきであろう。			
④ 今後の対応 今後も、広く市民に地域の歴史文化を学習する機会を設ける。また、各種講座や研修会等とおして、地域を担う人材育成を行う。			

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	G 城下町・岡城跡回遊促進事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

城下町と岡城跡は距離がある上に標高差もあり、両者を結ぶ公共交通手段も無いことから、高齢者等の来訪者にとって徒歩による移動が難しい状況である。このため、レンタサイクルの運行に加え、城下町と岡城跡等の観光施設への交通手段を検証するため、周遊バスの試験運行を行った。この結果、JR豊後竹田駅から岡城跡への移動手段として周遊バスの有効性が確認された。

また、岡城跡はその立地から、高齢者や身体の不自由な人にとっては登城が難しい状況であるため、周遊バスに加えて「岡城登城バス」の運行を実施している。

レンタサイクル利用実績(台)

	H27	H28	H29	H30
貸出台数	530	590	400	473

※貸出は、通年（365日）で実施。

岡城登城バス運行実績

	H27	H28	H29	H30
運行日数(日)	121	49	56	70
利用者数(人)	6204	3013	4295	3933



周遊バス運行のチラシ



岡城登城バスの運行

② 自己評価

周遊バス試験運行の実施により、城下町と岡城跡を繋ぐ交通手段としての有効性を確認することができた。岡城登城バスの運行は、高齢者を中心に好評であるが、季節や時間帯に入り利用者にばらつきがあることから、今後運行日数等の検証を行い、効率的な運行を実施する必要がある。

外部有識者名	九州大学大学院 教授 藤原恵洋
外部評価実施日	平成31年1月31日

③ 有識者コメント

広大な岡城跡は崖下に竹田の城下町を抱えるものの、両者を繋ぐ道のりは距離があり、標高差も厳しい。そのため、一部の健脚な来訪者を除いた場合、徒歩による移動は現実的に困難である。また近年の利用者の多くは高齢者・後期高齢者となっているため、徒歩による移動は厳しい。こうした複合的理由から、城下町と岡城跡を結ぶ周遊バス・岡城登城バスの試験運行が行われている。

とりわけ竹田市の表玄関とも言えるJR竹田駅から岡城跡へ登る際に利用した来訪客の評価は高く、事業に公益性や有効性があり、高齢者を中心に好評であった。この際の「週末おでかけバス」は平成30年（2017）度10月5日～12月2日にかけて大分国民文化祭プログラムへの来訪客を主たる対象としたが、2ヶ月毎日運行で60日間運行し3426人が利用。1日あたり50数名の利用客だが、これは大型バスの定員と同じである。全日程に関しておおむね満席が続いていたと考えられる。

④ 今後の対応

岡城登城バスの効率的な運行を引き続き行う。また、城下町と岡城跡を結ぶ交通手段を早期に確立する。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	1 城下町の夏越祭に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針 II 文化財の保存に関する方針 III 歴史的遺産の周辺環境に関する方針 IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

毎年7月に岡城下町で行われる主要な祭りである夏越祭は、城原八幡社の神輿が城下町にある3社（西宮神社、岡神社、神明社）へ御神幸を行う祭りで「城原様のオサガリ」と呼ばれ親しまれている。御神幸行列は、城下の各町の子供神輿が「チョーサジャ」の掛け声で先導し、獅子、太鼓、六角、榊、城原八幡社の神輿の順で隊列を組み城下町を廻る。城原八幡社

② 維持向上の経緯と成果

夏越祭の御神幸行列のルートとなる、本町通り・駅前通りの電線類無電通化事業を推進しており、無電柱化が完了（H31完了予定）すると御神幸行列のスムーズな通行が可能となる。また、「通りあそびフェスタ」を開催し、無電柱化後の通りのあり方を考える機会を設けた。

夏越祭が開催される城下町の景観形成のため、建物修景事業や道路美装化事業を実施し、城下町の歴史的な町並み保存を行った。

夏越祭を市報やケーブルテレビを通じて広報を行い、広く市民や観光客に対し、情報発信を行った。



道路美装化が完了した本町通



夏越祭の様子 H29.7.23

③ 自己評価

無電柱化事業の実施により、スムーズな神輿の巡幸が期待される。また、建物修景や道路美装化により、城下町の景観形成を図ることができた。

④ 今後の対応

町並みを形成する歴史的建造物の保存・活用を進め、城下町の景観を維持していく。また、空き家・空き店舗の活用を行い活気ある城下町の形成を行う。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	2 西宮神社の八朔祭に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針 II 文化財の保存に関する方針 III 歴史的遺産の周辺環境に関する方針 IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

西宮神社の八朔祭は、西宮神社の氏子である本町地区の住民（本町組）により行われる祭りである。本町地区は旧竹屋書店（登録有形文化財）や塩屋土蔵（登録有形文化財）などの歴史的に価値の高い町家が残され、江戸時代から城下町のメイン通りとして繁栄した地域であり、その本町町内を神輿が巡幸し、各商店が商品や生活用品を使い、見立て細工を出し、商売繁盛・五穀豊穡・家内安全を願う。

② 維持向上の経緯と成果

八朔祭りの目玉ともいえる見立て細工の展示箇所が、店舗の閉店や高齢化により年々減少傾向となつてきている。空き家や空き店舗の活用へ助成（修景補助等）を行い、通りの活性化を行った。

八朔祭の御神幸行列のルートとなる、本町通りの電線類無電通化事業を推進しており、無電柱化が完了（R1完了予定）すると御神幸行列のスムーズな通行が可能となる。城下町の景観形成のため、建物修景事業や道路美装化事業を実施し、城下町の歴史的な町並み保存を行った。

城下町の拠点施設である城下町プラザ（R1完成）、歴史文化交流センター（R1完成）の建設に着手した。



城下町プラザ完成予想図



建設中の歴史文化交流センター

③ 自己評価

都市計画道路建設廃止により、「歩けるまち」づくりとして、電線類無電柱化事業、道路美装化事業を行った。加えて、都市計画道路による拡幅予定地であった建造物の修景事業も行われ景観形成が図られた。また、城下町プラザや歴史文化交流センターの建設が着手され、完成後の賑わい創出が期待される

④ 今後の対応

建設中の城下町プラザ、歴史文化交流センターの完成により市外からの観光客の増加が見込まれることから、無電柱化により歩きやすくなった通りで行われる八朔祭の見立て細工の展示箇所の増加を呼びかけ、城下町のメイン通りでもある本町通りの賑わい創出の取組を実施していく。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	3 岡神社の善神王様祭に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針 II 文化財の保存に関する方針 III 歴史的遺産の周辺環境に関する方針 IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

城下町の東端の高台にある岡神社で開催される善神王様祭は、城下町の東部祭組合により岡神社周辺で行われる。佐藤家住宅（登録有形文化財）などの歴史的建造物が建ち並ぶ町並みを舞台に、神楽の奉納や幽玄な小松明（松明を灯し並べたもの）の灯りが城下町を幻想的に彩る。

② 維持向上の経緯と成果

平成29年度にオープンした新市立図書館は、旧図書館時代の2倍の来館者数を維持している。新図書館では、情報発信に加え、貴重な歴史資料の保管、活用が行われている。

また、岡神社周辺には、新図書館のほか、廣瀬神社、武家屋敷通、塩津清人能舞台、深田光霊記念詩聲館、吉川家住宅、佐藤家住宅などの文化・観光施設があり、それらを結ぶ道路美装化を実施した。

市立図書館利用実績

年 度	H27	H28	H29	H30
利用人数	38,023	32,011	66,342	72,973
備 考	旧図書館	旧図書館	新図書館開館	



平成29年度にオープンした新市立図書館



道路美装化状況（カラー舗装）

③ 自己評価

新図書館周辺の道路美装化も実施され、文化・観光の拠点施設と周辺景観づくりにより、相乗的な効果が発揮されるよう配慮した。

④ 今後の対応

岡神社周辺の文化・観光施設を廻る案内板等の整備を行い、来訪者の利便性を図る。また、周辺の建物修景事業等の景観整備について引き続き実施していく。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	4 神明社の大祭に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針 II 文化財の保存に関する方針 III 歴史的遺産の周辺環境に関する方針 IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

神明社の大祭は、古町地区の氏神である神明社に、古町地区の繁栄を祈念して行われる祭りで、5月1日～2日にかけて執り行われる。祭りの期間に古町の住民が五目寿司を作り、訪れる友人知人に振舞うことから、別名「寿司祭り」とも呼ばれている。寿司の振舞、神楽の奉納、催し等に多くの見物客が訪れ、古町通りは賑わいに包まれる。

② 維持向上の経緯と成果

神明社の所在する古町通は、城下町の玄関口であり、現在、電線類無電通化事業を推進し、交通の利便性の確保を行っている。

また、建物修景事業や空き家、空き店舗の活用を行い通りの賑わい創出を行った。また、空き家・空き店舗への移住者や起業者が神明社の大祭へ参加が見られるようになった。



空き店舗を利用した竹田キリシタン資料館



空き家をリニューアルした宿泊施設

③ 自己評価

JR豊後竹田駅から城下町へのエントランスとなる古町通りの無電柱化事業の実施により、回遊性の向上が図られる。また、空き家、空き店舗への新規出店や竹田キリシタン資料館のオープンにより通りの活性化に繋がった。

④ 今後の対応

神明社のある古町地区は、JR豊後竹田駅と隣接する城下町の玄関口であることから、引き続き建物修景事業等の景観整備、空き家、空き店舗対策を行い賑わいの創出を行う。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	5 城下町の恵比寿講に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物と町並みの保存・活用に関する方針 II 文化財の保存に関する方針 III 歴史的遺産の周辺環境に関する方針 IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

岡城下町で行われる祭礼である恵比寿講は、城下の町家を中心に、数件の家で組織された講組により、江戸時代から継続して行われている。恵比寿講は2月下旬から3月上旬にかけて開催され、神事や講組の各家々を廻る「町廻り」、直会が行われる。「組」は城下で暮らしを行う住民の共同体であり、城下町の繁栄を支えてきた町家の人々の住民活動の礎となるものであると言える。

② 維持向上の経緯と成果

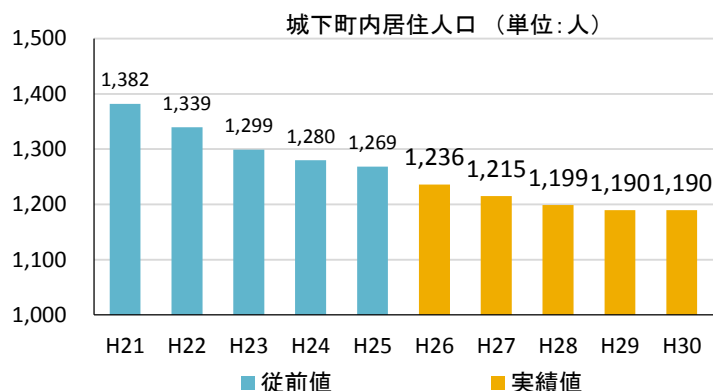
恵比寿講の開催を町内掲示板や回覧板に入り周知を行い、継続的な開催を維持している。

恵比寿講が実施される城下町において、町並みを形成する、歴史的建造物等の特性を活かした修景事業、城下町の景観を阻害する老朽危険家屋の除去についても実施した。また、電線類無電柱化事業、道路美装化事業を行い回遊性の向上が図られた。

城下町内の空き家・空き店舗について、新たに起業を行うものに対し、補助金や助成制度を設け、移住者等による空き家・空き店舗の活用を実施した。



建物修景事業



③ 自己評価

城下町の回遊性の向上や空き店舗の活用など一定の賑わい創出を図ることができた。また、伝統行事を実施する住民人口減少に歯止めをかけることができたが、増加には至っていない。

④ 今後の対応

恵比寿講の各地区での継続的な開催を維持するためには、氏子である城下町の人口減少の歯止めが必要である。城下町全体の住環境整備を行い住みたくなるまちづくりを行っていく。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	6 旧竹田荘と豊後南画の祖田能村竹田顕彰活動に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ文化財の保存に関する方針 Ⅳ観光・情報発信・啓発に関する方針 Ⅵ市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

岡藩の城下町である竹田は、江戸時代以降奥豊後の政治・経済・文化の中心地として栄えてきた。その城下町は、田能村竹田・瀧廉太郎・廣瀬武夫・朝倉文夫・佐藤義美などの偉人を数多く輩出する土壌を培い、今なお当時の面影のままの町並みから歴史・文化を感じることができ、それらの偉人を顕彰する活動が市民により行われている。

田能村竹田の顕彰活動は、大正時代から行われており、現在でも11月に行われる「竹田先生年祭」では、墓前祭や茶会が行われ、訪れた人々に濃茶や煎茶が振舞われる。その他に、田能村竹田の作品の紹介が市内各所に見られ、市民が普段の暮らしの中で先人の残した偉業に触れることができる。

② 維持向上の経緯と成果

田能村竹田の顕彰活動の中心となる「竹田先生年祭」を計画的に実施した。年祭では墓前祭や茶会が実施され、多くの人が旧竹田荘を訪れた。（田能村竹田顕彰会開催市補助）

また、田能村竹田の作品を紹介する「まちかど南画館」が、城下町内に4箇所設置された。（田能村竹田顕彰会設置）

市内外からの小中高生の絵画や書の作品を集めた竹田先生を偲ぶ美術祭を実施した。（市主催）

田能村竹田の作品の紹介を行う歴史文化交流センターの建設も進んでいる。



まちかど南画館設置状況



竹田先生を偲ぶ美術祭表彰式



まちかど南画館



歴史文化交流センター完成予想図

③ 自己評価

官民共同により、竹田先生年祭や竹田先生を偲ぶ美術祭の継続した開催ができた。また、「まちかど南画館」の設置により竹田の作品を多くの人に紹介ができた。

④ 今後の対応

旧竹田荘、歴史文化交流センター、総合文化ホール、竹田荘公園など施設を活用して田能村竹田の顕彰活動を継続して実施していく。また、建設中の歴史文化交流センターは田能村竹田美術館の機能を備える。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	7 久住高原の野焼きに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV観光・情報発信・啓発に関する方針 VI市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

久住高原は久住連山南麓の裾野に広がる標高600m～1,000mの高原であり、阿蘇くじゅう国立公園に含まれる。

久住高原では、古来より牛馬の飼育が行なわれてきた場所であり、牛馬の飼育に必要な草地の確保のため野焼きが行われてきた。現在見ることができる雄大な草地は、長い年月をかけて、高原に住む人々の営みと久住高原の大自然の共生により造られたものであり、これらの草地は放牧や採草地として使用されるだけでなく、その雄大な草原は、市を代表する観光地として多くの人々が訪れる。

② 維持向上の経緯と成果

久住高原の雄大な草地の維持のため、野焼きの実施を実施した。

久住高原周辺では、立地的な環境から、近年メガソーラや風力発電施設等の再生エネルギー発電施設の建設が計画をされている。これらの施設による大規模開発による高原景観の阻害が懸念されるため、景観維持に関する条例やガイドラインの策定を行い、景観の維持を行った。

- ・竹田市景観条例、竹田市景観計画を策定（H27策定、H28運用）
- ・竹田市再生エネルギー発電施設の設置に関するガイドライン・要綱の策定（H30）



久住高原の野焼き H31.3

③ 自己評価

継続した野焼きの実施をすることができたが、人手不足により野焼きを取りやめる場所も出てきている。再生エネルギー発電施設（メガソーラ・大型風車）はクリーンなエネルギーを供給するが、設置個所の景観を阻害する例も見られることから、設置に関するガイドラインの策定を行い、景観の保全を図る方向性ができた。

④ 今後の対応

畜産農家の減少や高齢化による野焼きの人出不足解消のため、ボランティア等を募り、継続的な実施を行う。また、久住高原の景観保全の取り組みを引き続き実施する。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	8 久住神社の久住夏越祭に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

久住地域は、豊後と肥後を結ぶ肥後街道、竹田（岡藩）と日田（天領）を結ぶ日田往還が交差する交通の要衝であり、久住は宿場町として栄え、江戸時代には肥後藩の代官所が置かれ、久住地域支配の拠点となった。この久住に鎮座する久住神社の神輿が建宮神社へ御神幸する祭りである久住夏越祭は8月に開催される。久住夏越祭は、神輿神幸や曳山行事が行われ周辺地域から多くの見物客が訪れ、曳山の「ヤーマヤレ、元気出せ」の掛け声と囃子の音色が高原のまち久住に夏の訪れをつげる風物詩である。

② 維持向上の経緯と成果

竹田市景観条例、景観計画の制定により、これまで規制のなかった建造物等に対し、一定の基準を設け届出の必要性が生じたことにより、久住の町並み景観の保全が図られた。また、久住夏越祭の山車に使用する太鼓の修復を実施することにより、夏越祭継承への意欲の向上が見られた。



久住夏越祭の様子（H30.8.9）



久住夏越祭の山車（太鼓の新調）

③ 自己評価

伝統行事使用する用具修理に対し助成を行い、伝統行事継承への意欲の向上が図られた。また、景観条例、景観計画の制定により、景観に対する一定の規制を設けることができた。

④ 今後の対応

久住夏越祭が行われる久住地域の景観保全を引き続き行う。伝統行事、伝統芸能の継承を維持するために必要な用具整備に対し助成を行っていく。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	9 宮処野神社の神保会行事に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

神保会行事が行われる宮処野神社は、竹田市のくじゅう連山の裾野に広がる高原地帯に立地し、古代から朽網郷の中心地として栄えてきた場所である。宮処野神社の秋季大祭である神保会は、3基の神輿と3組の獅子組、2組の白熊組で構成される神幸行列が中心の祭礼であり、神保会行事開催日には、日頃はのどかな田園風景の広がる宮処野神社周辺は、氏子により奉納された大幟が沿道に建ち、社殿周辺や参道に多くの参詣者が立並ぶ中を、獅子舞や白熊に先導された華やかな神幸行列が賑やかな調子の中、整然とした姿で進む。

② 維持向上の経緯と成果

宮処野神社神保会行事の神幸行列の中心となる、獅子舞や白熊の団体への用具整備の助成や記録映像の撮影はH25年度に完了しており、神保会行事に参加する各伝統芸能保存会は、祭りの開催が近づくと、意欲的に練習を行うなど、確実な伝統芸能の継承が図られている。



宮処野神社神保会行事 左：獅子舞 右：白熊（H29.10.13）

③ 自己評価

H25までに伝統芸能の用具整備を完了していることから、新たな用具整備は行っていないが、保持団体の伝統芸能の継承への意欲を感じることができた。

④ 今後の対応

今後も、必要に応じて、用具整備等への助成を実施し、確実な伝統芸能の継承を図る必要がある。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	10 長湯温泉の温泉供養に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 観光・情報発信・啓発に関する方針 V 伝統行事・伝統芸能に関する方針 VI 市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

高濃度炭酸泉が湧出する長湯温泉は、温泉旅館・共同浴場・公営浴場が立並び情緒ある温泉街であり、古来から湯治場として栄えてきた。長湯温泉にある湯原薬師堂には、岡藩主にゆかりのある薬師如来と地藏菩薩が安置されており、古来より長湯温泉の守護神として崇められている。

温泉供養では、湯原薬師堂の二尊に各温泉の温泉水を奉納し法要を行い、法要後温泉水を元の温泉に戻され供養を行う。温泉街には、神輿が賑やかに巡行し、住民や湯治客が沿道で囃し立てる湯治場長湯の象徴となる行事である。

② 維持向上の経緯と成果

竹田市景観条例、景観計画の制定により、これまで規制のなかった建造物等に対し、一定の基準を設け届出の必要性が生じたことにより、長湯の町並み景観の保全が図られた。温泉供養と同時開催されている「長湯温泉まつり」では、神楽の奉納や住民による歌や踊り等の催し物が行われ、賑わいが創出されている。

また温泉療養複合施設「クアパーク長湯」の建設（R1オープン）により、長湯温泉全体の活性化が期待される。



長湯温泉まつりの様子（H29.7.31）



温泉療養複合施設「クアパーク長湯」（R1オープン）

③ 自己評価

情緒ある温泉街である長湯温泉の景観について、景観条例、景観計画の制定により一定の保全が図られた。また、温泉療養複合施設「クアパーク長湯」のオープンによる地域活性化が期待される。

④ 今後の対応

情緒ある温泉街長湯の景観保全を行い活性化に努める。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	11 農業水利施設の維持に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ文化財の保存に関する方針 Ⅳ観光・情報発信・啓発に関する方針 Ⅵ市民活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

竹田市南部地域は、祖母山系の山々が作り出す陰しい山地と大野川水系の河川浸食により谷部が形成され、山地、山麓緩斜面、谷部、谷底平野の連続する地形を呈している。古来より水利条件の悪い狭小な谷底平野と山麓緩斜面を利用した棚田による農地が点在し、江戸時代以降それらの農地に莫大な労力を投じて農業水利施設の整備が行われてきた。それらの農業水利施設は、現在まで地域住民により維持管理が行われ、かわらず多くの水田へ農業用水を供給し、竹田市の農村の原風景を造りだしている。

② 維持向上の経緯と成果

各農業用水路は、受益者を中心に維持がなされ、水路清掃や式典・神事が行われる水恩祭が継続して、実施されている。

平成29年竹田市南部地域に広がる「祖母・傾・大崩山系」がユネスコエコパークに登録されたことにより、自然観察会、講演会が地域住民により行われるなど、地域の活性化が図られている。

祖母山系の自然とそこに暮らす住民の営みの中で形成された円形分水や白水ダムなどの農業遺産を結びつけ、新たな観光資源として案内板や説明板の設置を行った。

竹田市景観条例、竹田市景観計画を策定（H27策定、H28運用）、竹田市再生エネルギー発電施設の設置に関するガイドライン・要綱の策定（H30）を行い、景観の維持に努めた。



ユネスコエコパーク登録記念式典



萩・柏原井路の水恩祭の様子

③ 自己評価

谷あい水田に農業用水を供給する水路は、土地改良区により維持されている。また、ユネスコエコパーク登録により、地域の活性化が図られた。

④ 今後の対応

農業用水路の維持及び周辺景観の保全に努める。また、ユネスコエコパーク認定により祖母山系が注目されつつある。円形分水や白水ダムなどの農業遺産の観光資源としての活用を推進する。

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
① 庁内組織の体制・変化 計画認定当初、計画推進については、まちづくり部局の建設課、総合まちづくりセンター、文化財保護部局である文化財課を計画推進の事務局とし、庁内各課で組織される「城下町再生プロジェクト庁内連絡会議」において庁内の連絡・調整を実施してきた。 その後、機構改革により建設課都市計画係とまちづくりセンターの統合により都市デザイン課が新設されまちづくり部局の事務局となっている。 【計画推進体制図】 The diagram illustrates the plan promotion system. At the center is a pink dashed box labeled '竹田市(行政)' (City of Takekuni Administration). Inside this box, the top section is '城下町再生プロジェクト庁内会議 (計画推進組織)' (City-wide Meeting for the Castle Town Regeneration Project (Plan Promotion Organization)), which includes the General Affairs, Planning, Finance, Construction, Commerce/Tourism, Urban Design, Education Committee General Affairs, Library, and Career Learning/Cultural Assets sections. The bottom section is the '事務局' (Secretariat), which includes the Urban Design Division, Cultural Heritage Protection Division, and Cultural Assets Section. To the left of the central box is an orange box for '国 (国土交通省 農林水産省 文部科学省)' (National Government: Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism; Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries; Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) and '大分県' (Oita Prefecture). A blue arrow labeled '協議' (Consultation) points from the central box to the national government, and another blue arrow labeled '相談・支援' (Consultation/Support) points from the national government to the central box. To the right of the central box is a yellow box for '竹田歴史的風致維持向上協議会' (Takekuni Historical Scenery Maintenance and Improvement Council). A blue double-headed arrow labeled '連絡・調整' (Communication/Coordination) connects the central box to this council. Below the central box is an orange box for '文化財保護調査委員会・都市計画審議会等の関係委員会' (Related Committees such as the Cultural Heritage Protection Investigation Committee and the Urban Planning Review Committee). A blue arrow labeled '協議' (Consultation) points from the central box to this committee, and another blue arrow labeled '指導・助言' (Guidance/Advice) points from the committee back to the central box.			
② 庁内の意見・評価 中間評価について内容確認をした際の意見 1. 計画に記載の事業については、各部署において推進をしているが、計画全体の進捗管理を行うことにより、他の部署の事業進捗状況が確認できる。 2. 概ね計画通りに進捗していると判断されるが、一部事業に、遅れが生じている部分が見られる。 3. 自己評価について、より厳しい目での評価が必要			

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
① 住民意見 意見集約 平成31年2月28日 ○岡城跡や城下町のガイダンスブックを活用し、情報発信をしっかりとってほしい。 ○岡城跡の景観保全について、市民ボランティアで除草作業等を行っているが、参加者が少なくなっている。行政と共同で呼びかけを行ってほしい。 ○ボランティア団体へ助成金（除草作業等の機械や燃料代）をお願いしたい。			
② 協議会におけるコメント 協議会実施日 令和元年5月24日 ○拠点施設建設にあたり、市民説明会を実施し、行政と市民の意見交換ができたので良かったが、各施設建設で意見交換会の回数にばらつきがあり、十分意見が取り入れられたのか。 ○空き家空き店舗の改修について、ガイドラインに適合しないデザインが一部みられる。また、梁や柱を外して内装を行う事例が見られる。 ○歴史的風致維持向上計画については、次世代の育成が課題である。他市町村の事例等の情報収集を行い、良い部分を取り入れるべきである。 ○計画では景観に力を入れて進めていることがわかる。今後も市民の協力を得て計画推進を進めていくべきである。 ○九州全体ではいくつもの計画が動き始めているので、情報を交換しながら計画の推進を行ってほしい。 ○計画期間も折り返しを迎え、事業計画の着実な遂行が求められる。各事業の進捗状況や遂行上の問題点を把握し、改善策を講じながら、着実に事業を完了させていく必要がある。			
 歴史的風致維持向上協議会の様子			

市町村名	竹田市	評価対象年度	H26～H30年
① 全体の課題 ① 認定後5年を経過し、重点区域内でのハード事業の多くが完了を迎える。完成した施設等の有効的な活用が課題である。 ② 重点区域外の歴史的風致の向上を図る必要がある。 ③ 高齢化、少子化により、伝統行事や伝統芸能の担い手不足が進行し、継承が困難となってきた。 ④ 重点区域内の歴史的建造物について、所有者が維持できず取り壊される事例が見られ、空き地が目立つようになってきている。 ⑤ 計画前半の進捗状況を把握により、未達成事業についての対応が必要である。			
② 今後の対応 ① 歴史文化活動拠点施設（新市立図書館・歴史文化交流センター、城下町プラザ、総合文化ホール）の役割の明確化や連動した企画の運営を行う。 ② 重点区域外の歴史的風致に対する課題の洗い出しを行い、必要な事業について関係機関と連携して歴史的風致の維持向上を図る。 ③ 伝統行事、伝統芸能の保持団体等の現状を再確認し、必要な助成や活動の場を設ける。また、後世への確実な継承を図るため、後継者育成や人材確保の支援について検討を行う。 ④ 空き家、空き店舗の有効活用を図るため、所有者と移住者などの活用を希望する者とのマッチングの機会を設ける。また、城下町の歴史的風致の維持向上に支障をきたす空き地の有効利用（ポケットパーク・駐車場等）を検討する。 ⑤ 計画記載の事業内容について再確認を行い、課題や内容の修正等を行い、確実な事業推進を図る。			